

6. 学部教育へのその他の貢献

最も重要な貢献は、学部で行われている教育研究に対して、その実施の場および材料を提供することにある。またこれに劣らず、施設教官が学部で行われている講義、実験、さらに卒業論文の指導を担当している場合も少なくない。

多くの場合、学部のメイン・キャンパスから離れて立地していることから、宿泊を兼ねての多面的な現場教育に利用される頻度が高い。

7. 大学院の教育研究への貢献

学部教育と同様、大学院生に研究の場ならびに材料を提供している。また大学院の講義、実験、実習への施設教官の関与の程度も高く、実質的に学位論文研究にも大きく関わっている。

8. 他学部、他大学の教育研究への貢献

研究の場および材料の提供については、学部、大学院に対する場合と同様で、広く開放的利用が行われている。

教育面では、単位互換性による実習の相互乗入れ等、大学間の横断的な連携がスムーズに行われている。

さらに社会人、市民への現場教育、研修の実施により、大学の範囲を越えて広く社会に貢献している。

9. 現状についての問題点

設備の老朽化および教職員の削減が、現業部門を中心として成り立っている施設にとって最も深刻な問題となっている。近年の予算の実質的削減は、満足すべき教育研究の遂行を不可能にするまでになっている。

週休2日制による労働力の配分の問題、女子学生急増による設備増設の問題等、近年の社会情勢の変化が、上記した問題の深刻さに拍車をかけている。

10. 教育研究の基本方針および将来計画

学部の組織改編が進行する中で、施設も多様に揺れ動いている。様々な将来構想の中で中心となっているのは、再編されつつある大学院への組織的組み込みへの期待である。ただし、多くの場合、そのような組織再編の動きに、施設教官が主体的に参加できていないのが現状で、このような状況に対する不満が大きい。

11. 施設の特殊利用

一部の施設では、動植物の特定の分類群についての遺伝子保存に取り組んだり、あるいは植生や標本の保存を行っている。またバイオテクを利用した開発研究や、その他の特殊目的に施設が利用されている場合もある。しかし多くの施設は、そのよ

うな新たな領域への参入を望みながら、予算的制約のため現状に留まらざるを得ない状態にある。

12. 日本学術会議への要望

施設の抱える問題点を充分理解し、その解決にむけて絶大な支援を期待する。多くの施設の教職員が、過疎地の劣悪な環境下におかれながら、地道な努力を続けていることに理解を示されたい。

農林水産学教育に占める施設の重要性を認識されたい。それとともに、日本の第一次産業の将来ビジョン等、施設のあり方の基本にかかわる問題点を明確にすることに努められたい。

13. その他

疎外的条件下におかれ、主体的に動けない施設教官には、将来計画等には答えられないとの指摘があった。

調査結果

以下、調査結果を質問項目に従って、1) 面積等の規模、2) 教職員数、3) 担当実習科目、4) 実習の内容と方針、5) 学部教育へのその他の貢献、6) 大学院の教育研究への貢献、7) 他学部、他大学の教育研究への貢献、8) 現状についての問題点、9) 教育研究の基本方針および将来計画、10) 施設の特種利用、11) 日本学術会議への要望、12) その他、の順に記載する。記載はデータを示すことのできるものについては集計結果（自由回答式のものには主要な意見分布）を示し、ついでこれらの結果より読み取れるところを、注記とともに簡単に取りまとめた。

1. 面積等の規模

この項では各施設の敷地面積を調査し、施設が複数地区に分散している場合は、その分散度についても併せ調査した。なお、水産実験施設など、敷地面積が機能的に大きな意味を持たない場合は、集計から除外した。

1. 1 施設の面積規模

「農場」

総面積 (ha)	施設数				計
	国立	公立	短大	私立	
1 ~ 10	1	1	2	0	4
10 ~ 20	6	0	0	2	8
20 ~ 30	8	0	2	1	11
30 ~ 40	6	0	1	0	7
40 ~ 50	1	0	0	1	2
50 ~ 100	6	0	0	2	8
100 ~ 200	3	0	1	1	5
200 ~	2	0	0	1	3
計	33	1	6	8	48

「演習林」

総面積 (ha)	施設数		計
	国立	私立	
100 ~ 200	1	2	3
200 ~ 500	5		5
500 ~ 1,000	10		10
1,000 ~ 5,000	3	1	4
5,000 ~ 10,000	2		2
10,000 ~	2		2
計	23	3	26

「牧場」――調査6施設の実数

国立： 15, 37, 466, 1634 ha

私立： 6, 22 ha

1. 2 施設の分散度

所在ヶ所数	施設数			
	農場	演習林	牧場	水産施設
1	23	5	6	13
2	12	4		0
3	10	6		1
4	2	3		2
5	1	3		
6		2		
7		1		
8		1		
9		1		
計	48	26	6	16

(まとめ)

1. 農場の敷地面積は特殊なものを除き、およそ4~300haの範囲にあるが、20~40haが標準規模とみられる。規模の大きい農場の多くは、牧場ないし演習林の機能をそなえたものである。演習林は120~70,000haと規模の変異が大きい。およそ500~1,000haが標準的な規模とみられる。ただし国立5大学の演習林はきわめて大きな規模になっており、以下の集計では場合によって一般の規模の演習林とは区別して取り扱った。牧場は一部の大規模のものを除けば農場並の規模を標準としている。
2. 農場は約半数の大学では1ヶ所に集中しているが、自然立地の異なる2、3ヶ所に分散し、それぞれに特定の機能を分担している大学も多く、最高5ヶ所に分散している場合が認められる。演習林は単一ヶ所より、自然条件の異なる複数の地域、気候帯に立地する傾向が強く、最高9ヶ所に分散している大学がある。牧場はすべて一ヶ所に集中しているが、水産施設は最高4ヶ所に分散している。

2. 教職員数

この項では各施設に所属する教職員数を、専任教官数、一般職員数別に調査した。また教職員の動態を把握するため、現在と10年前の状況(カッコ内)を併せ調査した。私立大学の場合は職種、職階等の表記が異なる場合があるが、国立大学に準じて算定した。

2. 1 専任教官数

「農場」

	国立	公立	短大	私立	計
教授	34 (31)	1 (0)	3 (2)	3 (1)	41 (34)
助教授	45 (51)	0 (1)	10 (5)	12 (11)	67 (68)
講師	5 (3)	1 (1)	5 (7)	28 (22)	39 (33)
助手	51 (60)	5 (5)	11 (9)	9 (12)	76 (86)
教務職員	2 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (4)
計	137 (148)	7 (7)	30 (24)	52 (46)	226 (225)

「演習林」

	国立	私立	計
教授	25(19)	0(0)	25(19)
助教授	34(36)	1(0)	35(36)
講師	19(18)	0(0)	19(18)
助手	54(61)	1(0)	55(61)
教務職員	3(5)	0(0)	3(5)
計	135(139)	2(0)	137(139)

「水産施設」

	国立	私立	計
教授	6(5)	0(0)	6(5)
助教授	11(11)	1(1)	12(12)
講師	1(1)	3(1)	4(2)
助手	9(9)	2(2)	11(11)
教務職員	1(0)	0(0)	1(0)
計	28(26)	6(4)	34(30)

「牧場」

	国立	私立	計
教授	1(2)	0(1)	1(3)
助教授	2(4)	0(0)	2(4)
講師	0(0)	0(1)	0(1)
助手	1(3)	0(0)	1(3)
教務職員	2(3)	0(0)	2(3)
計	6(12)	0(2)	6(14)

2. 2 一般職員数

「農場」

	国立	公立	短大	私立	計
技術職員	434 (533)	7 (7)	58 (63)	98 (95)	597 (698)
事務職員	140 (159)	0 (1)	6 (5)	14 (9)	160 (174)
非常勤	91 (65)	1 (0)	16 (2)	24 (22)	132 (89)
計	665 (757)	8 (8)	80 (70)	136 (126)	889 (961)

※国立の技術職員の内訳

行(一) : 315 (286) 名

行(二) : 119 (247) 名

「演習林」

	国立	私立	計
技術職員	315(403)	4(5)	319(408)
事務職員	152(158)	4(3)	156(161)
非常勤	224(330)	4(4)	228(334)
計	691(891)	12(12)	703(903)

※国立の技術職員の内訳

行(一) : 205 (224) 名

行(二) : 110 (179) 名

「水産施設」

	国立	私立	計
技術職員	29(32)	23(18)	52(50)
事務職員	9(12)	17(9)	26(21)
非常勤	10(11)	59(35)	69(46)
計	48(55)	99(62)	147(117)

※国立の技術職員の内訳

行(一) : 23 (21) 名

行(二) : 6 (11) 名

「牧場」

	国立	私立	計
技術職員	18(27)	5(4)	23(31)
事務職員	5(5)	1(1)	6(6)
非常勤	3(5)	0(1)	3(6)
計	26(37)	6(6)	32(43)

※国立の技術職員の内訳

行(一) : 14 (23) 名

行(二) : 4 (4) 名

2. 3 1 施設当りの教職員数

「農場」

	国立	公立	短大	私立
教授	1.0	1.0	0.5	0.4
助教授	1.3	0.0	1.7	1.5
講師	0.2	1.0	0.8	3.5
助手	1.4	5.0	1.8	1.1
教務職員	0.0	0.0	0.2	0.0
計	3.9	7.0	5.0	6.5
技術職員	13.0	7.0	9.6	12.3
事務職員	4.2	0.0	1.0	1.8
非常勤	2.8	1.0	2.7	3.0
計	20.0	8.0	13.3	17.1

「演習林」

	国立(大)	国立(小)	私立
教授	2.8	0.6	0.0
助教授	4.4	0.7	0.3
講師	2.8	0.3	0.0
助手	9.2	0.4	0.3
教務職員	0.6	0.0	0.0
計	19.8	2.0	0.7
技術職員	45.0	5.0	1.3
事務職員	21.8	2.4	1.2
非常勤	32.8	3.3	1.3
計	99.6	10.7	3.8

※国立(大) : 大規模演習林を持つ5大学

国立(小) : その他の18大学

「水産施設」

	国立	私立
教授	0.5	0.0
助教授	0.8	0.3
講師	0.1	1.0
助手	0.7	0.7
教務職員	0.1	0.0
計	2.2	2.0
技術職員	2.2	7.7
事務職員	0.7	5.7
非常勤	0.8	19.7
計	3.7	33.1

「牧場」

	国立	私立
助教授	0.5	0.0
講師	0.0	0.0
助手	0.3	0.0
教務職員	0.5	0.0
計	1.5	0.0
技術職員	4.5	2.5
事務職員	1.3	0.5
非常勤	0.8	0.0
計	6.5	3.0

(まとめ)

1. 教官数は国立大学では、10年前に比べて減少し（水産関係施設を除き）、とくに牧場でこの傾向が著しい。職階別にみると、助手の減少が目立ち、教授、助教授は微増の場合もみられる。この間、私立大学では教官数の増加がみられる。
2. 一般職員数は国立大学では、10年前に比べ、いずれの類型の施設でも減少が顕著で、とくに技術系職員の減少率は農場、演習林で 20%前後に達している。
3. 1施設当りの教職員数は、国立の大規模な演習林で多く、農場は国公私立を通じ相対的に多い。私立の演習林、牧場の教官数はきわめて少ない。

3. 担当実習科目

この項では、学部学生に対して各施設が担当している実習科目名、科目数、対象学科、単位数等を、現在および10年前の状況について調査した。具体的実状は極めて複雑なため、ここには数値化し得た結果を示す。なお集計表で用いる用語は以下のよう規定する。

- ※ 科目総数：当該施設で担当している実習科目の総数。類似した内容でも、名称が異なれば別々に数えた。
- ※ 科目数：学科（コース）別、必修選択別にみた実習科目数の総計。例えば同一科目を2つの学科が履修すれば2とカウントされることになるため、上記の科目総数より数字が大となる場合も少なくない。
- ※ 単位数：学科（コース）別、必修選択別に集計した単位数の総計。例えば2単位の実習を2つの学科に実施している場合は、単位数は4となる。
- ※ 学生数：[単位数×受講学生数]を必修の実習科目全体について集計した値。例えばこの数値が100であれば、その施設では100名の学生が、通年、週1回実習したことを示す。

「農場」

(国立4年制)

	科目 総数	必修			選択	
		科目数	単位数	学生数	科目数	単位数
現在	3.76	4.06	6.45	129.5	1.76	2.66
10年前	3.06	4.12	8.08	123.4	1.50	2.34

(公立短期)

	科目 総数	必修			選択	
		科目数	単位数	学生数	科目数	単位数
現在	4.50	5.33	9.00	166.2	0.50	1.17
10年前	3.50	4.50	8.83	172.0	0.33	0.50

(私立4年制)

	科目 総数	必修			選択	
		科目数	単位数	学生数	科目数	単位数
現在	6.38	7.63	13.15	781.9	2.13	3.31
10年前	5.50	7.13	13.25	853.8	0.88	1.88

「演習林」

(国立4年制)

	科目 総数	必修			選択	
		科目数	単位数	学生数	科目数	単位数
現在	6.09	3.43	3.83	65.8	3.48	4.61
10年前	5.61	2.91	3.43	50.2	3.13	4.26

(私立4年制)

	科目 総数	必修			選択	
		科目数	単位数	学生数	科目数	単位数
現在	3.67	2.00	4.00	224.0	1.67	2.66
10年前	3.67	2.33	4.33	240.7	1.67	2.67

「水産施設」

(国立4年制)

	科目 総数	必修			選択	
		科目数	単位数	学生数	科目数	単位数
現在	2.77	1.46	2.08	65.1	1.46	2.08
10年前	2.92	1.77	2.15	56.8	1.23	1.69

(私立 4 年制)

	科目 総数	必修			選択	
		科目数	単位数	学生数	科目数	単位数
現在	1.67	0.00	0.00	0.0	1.67	2.33
10年前	1.67	0.00	0.00	0.0	1.67	2.33

「牧場」

(国立 4 年制)

	科目 総数	必修			選択	
		科目数	単位数	学生数	科目数	単位数
現在	2.75	1.75	3.50	53.8	1.00	1.75
10年前	3.00	2.00	4.00	57.5	1.00	1.75

(私立 4 年制)

	科目 総数	必修			選択	
		科目数	単位数	学生数	科目数	単位数
現在	1.50	1.50	3.00	230.0	0.00	0.00
10年前	2.00	2.00	3.00	210.0	0.00	0.00

(まとめ)

1. 10年前に比べて、とくに国立大学のカリキュラムの変化が著しい。科目が専門領域に応じて細分化し、その数が減少している。ただし必修科目数は押え、選択科目を増やす方向性がみられる。メニューを豊かにして、選択の幅を増加させる傾向といえよう。それだけ教職員の負担は増加しているとみられる。
2. データでは示し得なかったが、施設によって教官の実習へのかかわり方が著しく異なっている。農場では実習のほとんどは農場教官が担当し、学部教官が補助的に加わるのが一般的であるが、小規模の演習林、水産関係施設、牧場では、実習は学部教官が専ら担当しており（施設の教官数が限られているため？）、施設教官は一部を担当するか実習補助を行っている。大規模演習林は上記両者の中間的な状態にあるとみられる。

4. 実習の内容・方針

この項では施設が担当している実習科目の具体的内容及び方針を調査した。ただし各施設固有の具体的な事項が列挙されているため、単純な集計は困難である。ここでは全般的な傾向として読み取れるところを下記するにとどめる。

- 1) いずれの施設にも共通していることは、初心者にも実際の体験をさせることを、実

習の第一の目標にしていることである。

- 2) さらに高度の専門的な実習においては、a) 各種の免許取得のための特殊技術も含め、技術習得的な実習に重点がおかれるか、b) 研究者養成のための基礎教育(圃場試験法、生態調査法、環境要因分析法等)に重点がおかれるか、で各施設(大学)ごとに方針が異なっている。

5. 学部教育へのその他の貢献

この項では実習を担当する以外に、当該施設が学部の教育へ貢献している場面について、自由回答式に調査した。多様な意見が提出されているが、ほぼ類似していると考えられる意見を一括し、多数意見から順に回答総数および施設類型別回答数を付記して列挙した。なお、農場、演習林、水産関連施設、牧場はそれぞれ「農」、「演」、「水」、「牧」と略記した。また少数の意見は割愛せざるを得なかった。

(6以降の項で、自由回答式による場合の回答の集計・記載は、この項と同一の方式によっている。)

- 学部教官の研究のために施設を提供し各種の便宜を計っている。

68(農 35、演 17、水 13、牧 3)

- 研究や講義の材料を育成し提供している。

61(農 31、演 16、水 10、牧 4)

- 講義を担当している。

52(農 29、演 15、水 7、牧 1)

- 卒業研究を指導している。

41(農 23、演 11、水 6、牧 1)

- 研修・ゼミ・オリエンテーション等に場所・宿舍を提供し、便宜を計っている。

21(農 9、演 5、水 4、牧 3)

- 卒業研究を実質的に指導しているか、あるいは各種の助言を與えている。

13(農 9、演 4、水 0、牧 0)

- 実験・演習を担当している。

12(農 7、演 3、水 2、牧 0)

- 実験・演習を分担している。

10(農 4、演 1、水 2、牧 3)

- 講義を分担している。

7(農 5、演 1、水 0、牧 1)

- 技官研修、留学生実習、その他の研修・実習を実施している。

6(農 3、演 1、水 0、牧 2)

- 学部教官との共同研究を行っている。

4(農 4、演 0、水 0、牧 0)

(まとめ)

1. 施設が実習以外に学部教育に果たしているもっとも重要な機能は、教育研究の場および材料を提供していることにあるとみられる。
2. しかしそれに劣らず、講義や実験さらには卒業論文の指導を通じて、直接、学部教育に関与している場合も多いことが伺われる。
3. さらに多くの場合、学部キャンパスから離れて立地することから、宿泊を兼ねての多面的な現場教育に利用される頻度も高い。

6. 大学院の教育研究への貢献

この項では、当該施設が大学院の教育研究にいかに関与しているかについて、自由回答式によって調査した。

○研究の場を提供し各種の便宜を計るとともに、研究材料を提供している。

69 (農 30、演 19、水 16、牧 4)

○講義を担当している。

38 (農 19、演 12、水 6、牧 1)

○研究の指導を行っている。

31 (農 17、演 8、水 5、牧 1)

○実質的な研究指導を行うか、各種の助言を與えている。

23 (農 13、演 6、水 4、牧 0)

○実験・演習を担当している。

13 (農 4、演 6、水 2、牧 1)

○実験・演習を分担している。

6 (農 5、演 0、水 0、牧 1)

○講義を分担している。

5 (農 4、演 0、水 1、牧 0)

(まとめ)

1. 大学院生に研究の場ならびに材料を提供するなどの便宜を計っている点については、学部の場合と同様である。
2. 大学院の講義、実験・演習への関与の程度も高く、実質的に学位論文作成研究にも大きく関わっている場合が多いようにみられる。

7. 他学部、他大学の教育研究への貢献

この項では他学部、他大学の教育研究、あるいはその他について、施設の果たしている貢献について自由回答式で調査した。

7. 1 他学部に対して

○実験材料を提供し、または研究・調査の場を提供している。

42 (農 17、演 13、水 9、牧 3)

○実習を担当・分担し、またはこれに各種の便宜を計っている。

32 (農 11、演 13、水 7、牧 1)

○講義を行っている。

8 (農 4、演 4、水 0、牧 0)

○共同研究を行っている。

7 (農 3、演 1、水 3、牧 0)

○ゼミ・研修等に宿泊施設を提供している。

5 (農 4、演 1、水 0、牧 0)

7. 2 他大学に対して

○実験材料を提供し、または研究・調査の場を提供している。

38 (農 11、演 13、水 13、牧 1)

○実習を担当・分担（他大学との単位互換を含む）し、または各種の便宜を計っている。

34 (農 14、演 13、水 6、牧 1)

○共同研究を行っている。

28 (農 14、演 10、水 3、牧 1)

○ゼミ・研修等に宿泊施設を提供している。

7 (農 4、演 1、水 2、牧 0)

7. 3 その他に対して

○公開講座、生涯教育等を開催している。

9 (農 5、演 3、水 1、牧 0)

○JICA, ユネスコ等の研修を行っている。

6 (農 2、演 2、水 2、牧 0)

(まとめ)

1. 研究の場及び材料の提供などは、学部に対する場合と同様に行われており、広く開放的利用が計られている。
2. 教育面でも、単位互換制による実習の相互乗入れ等、大学間の横断的な連携がきわめてスムーズに実現しているようにみられる。
3. さらに、現場教育・研修等の実施により、大学の範囲を超えて広く社会に貢献している面も強い。

8. 現状についての問題点

この項ではそれぞれの施設が現在かかえている問題点について、自由回答式によって調査した。

○施設の老朽化が著しい一方、宿舍・実験棟等の絶対量が不足し、満足な教育研究の遂行に支障を来している。

65 (農 30、演 15、水 17、牧 3)

○教職員の絶対数が不足し定員削減・欠員不補充がこれに拍車をかけている。

58 (農 27、演 16、水 11、牧 4)

○予算が不足し、施設更新はもとより研究も充分できない。

28 (農 12、演 9、水 7、牧 0)

○施設環境の不備(灌漑設備や林道の欠如、傾斜地、水質汚濁等)、あるいは用地、水域の不足のため、満足な教育研究ができない。

25 (農 17、演 5、水 1、牧 2)

○遠隔地にあるため、経済的、時間的にきわめて不利である。

23 (農 14、演 7、水 2、牧 0)

○女子学生急増のため、これに対応した宿舍、設備が不足している。

12 (農 2、演 7、水 2、牧 1)

○過疎地にあるため、一般職員の確保が困難になっている。

8 (農 0、演 6、水 2、牧 0)

○週休2日制によって、労務管理や宿日直への対応が著しく困難になっている。

8 (農 7、演 1、水 0、牧 0)

○職員の老齢化が進んでいる。

4 (農 3、演 1、水 0、牧 0)

○収益に対応した予算配分制があるため、収益向上が大きな負担になって、本来の教育研究がおろそかになる。

3 (農 3、演 0、水 0、牧 0)

(まとめ)

1. 施設の老朽化、教職員の削減は、現業部門を中心として成り立っている施設にとって、もっとも深刻な問題となっている。
2. 近年における予算の実質的削減は、施設環境の不備とあいまって、十分な教育研究の遂行を不可能にするまでに至っている。
3. 多くの施設が遠隔地や過疎地に立地しているという特殊事情は、施設機能の発揮に大きな障害となっている。
4. 週休2日制の実施や女子学生の急増等、近年の社会情勢の変化は、上記した状況にさらに困難な問題を投げかけている。

9. 教育研究の基本方針および将来計画

この項ではそれぞれの施設の教育研究についての基本方針、再編改組についての将来計画等を調査したもので、すでに再編改組の実施されている場合はその現状を、また考慮中の場合は差し支えない範囲で、回答を求めた。

○学部で再編改組が検討されている。

70 (農 36、演 15、水 14、牧 5)

(6大学では農場抜きで改組が行われた。)

○大学院構想に沿い、施設・学部を統合した研究センターの設立を期待している。

35 (農 13、演 7、水 12、牧 3)

(4大学の農場はすでに何等かの形で大学院組織に組み込まれた。)

○将来構想：主要なものを列举すると、1) 細分化した専門領域を横断的につなぎ、総合技術学を教育研究する施設、2) 技術開発を通じて地域に貢献する施設、3) 全学の共同利用施設、4) 国際貢献に資する研究教育施設、など。

(まとめ)

1. 多くの大学で組織の再編改組が進行している中で、各施設とも大きく揺れ動いているのが現状とみられる。
2. さまざまな将来計画の中で、大学院構想への施設の組み込みを期待する意見がもっとも強い。
3. しかし回答の多くには、上記の動きに主体的に参加できないもどかしさが、にじみでているようにみられる。

1 0 . 施設の特利用

この項では前項と関連して、施設を特殊目的に利用することを考えているか、あるいはすでに実施しているかを調査した。例えば、1) 農場で作物、雑草の遺伝子保存、標本保存を考えているか、2) 牧場機能を有する施設で病体動物に関する研究や遺伝子工学を取り入れた家畜育種を考えているか、などがそれにあたる。

○すでに作物、林木、家畜、魚類等の特定の分類群について、遺伝子保存、標本保存、植生保存等を行っている。

事例：イネ科作物、雑穀、サツマイモ、リンゴ、日本ナシ、柑橘、イチゴ、ラン、観葉ラン、カメラア属、カエデ、タケ、貴重樹種、熱帯樹種、カイコ、サケ・マス、和種馬、シバヤギ・ヒツジ、植生保存、ヒノキ天然林、植物園、魚類標本など。

25 (農 12、演 7、水 4、牧 2)

○上記のような特殊利用をしたいが、予算的な措置がないと不可能。

19 (農 8、演 8、水 1、牧 2)

○バイテクを取り入れた開発研究を行っている。

5 (農 4、演 0、水 0、牧 1)

○上記のような特殊利用をしたいが、予算的措置がないと不可能。

9 (農 6、演 1、水 2、牧 0)

○その他の特殊利用例：気象モニタリング・システム。

(まとめ)

1. 一部の施設では、動植物の特定の分類群の遺伝子保存に取り組み、あるいは植生や標本の保存を行っている。またバイテクを利用した開発研究やその他特殊目的に施設を活用している。
2. しかし多くの施設は、そのような特殊目的への利用を考慮し期待しながら、予算的制約のため実現できないでいる。

1 1 . 日本学術会議への要望

この項では日本学術会議に要望するところを、自由回答によって調査した。

○劣悪な教育環境（とくに教職員の不足、施設の老朽化）の実状を理解し、その解決に尽力されたい。

38 (農 16、演 15、水 6、牧 1)

○農林水産系学部の教育研究に占める施設の重要性について、十分認識を深められ

たい。

29 (農 15、演 5、水 8、牧 1)

○教育研究のための予算の確保に支援を願いたい。

23 (農 11、演 9、水 2、牧 1)

○先端技術とは別の側面で、地道に貢献している施設の教育研究を評価されたい。

16 (農 6、演 4、水 4、牧 2)

○教育施設から研究施設への拡充改組に支援を與えられたい。

10 (農 4、演 4、水 1、牧 1)

○学部改組はもとより、万般にわたり疎外されがちな施設の現状を理解されたい。

9 (農 4、演 2、水 1、牧 2)

○施設のあり方と必然的に関連する日本の一次産業の将来像を明確に示されたい。

6 (農 3、演 1、水 0、牧 1)

○関連する全国大学附属施設協議会の要望書を充分検討されたい。

3 (農 2、演 1、水 0、牧 0)

○研究業績中心の自己点検・自己評価の基準は施設の教官にはなじまない。この点について関係者の理解を深めるよう努力されたい。

3 (農 3、演 0、水 0、牧 0)

(まとめ)

1. 施設が現在かかえている問題点(項目8)を充分認識し、その解決に支援の手を差し伸べることを、最も期待している。
2. 多くの施設が、市街地から離れた遠隔地、過疎地の劣悪な環境におかれながら、地道な活躍を続けていることに理解を示されたい。
3. 農学教育に占める施設の重要性を認識されたい。それとともに、日本の第一次産業の将来ヴィジョン等、施設のあり方の基本に関わる問題点を明確に示されたい。

1 2 . その他

この項は自由記入で、以下のような意見を受けた。

施設の教官はなかなか主体的に行動できない状況におかれている。組織再編、人事など、常に押し付けられている状況では、「項目9. 教育研究の基本方針および将来計画」などに、積極的に回答することは困難である。

附 属 資 料

(アンケート調査票)

農学系の学部・大学院における教育・研究アンケート調査票

- ・ 所属[大学(国立、公立、私立)、研究所(国立、公立、民間)
その他()]
- ・ 年齢()
- ・ 大学勤務経験の有無(有り、無し)
- ・ 所属研究連絡委員会名[]

--以上については、マルをつけるか、ご記入下さい。

1. 農学系を含む学部・大学院の現状と将来

[学部改組]—それぞれ、ひとつにマルをつける。

なお、カッコ内には、もしご意見があれば、その内容を一言、書いて下さい。以下も同じです。—

- 動機:ア) 内部的要因に基づく。()
イ) 外圧による。()
ウ) 外圧もあるが内的必然性があった。()
エ) その他()

- 内容:ア) 望ましい方向に変わった。()
イ) むしろ悪くなった。()
ウ) 実態は変わっていない。()
エ) その他()

- 今後:ア) 「改組」の目標に向かって内容充実をはかる。()
イ) 元にもどすべき。()
ウ) 再改組が必要。()
エ) その他()

[大講座制] —複数回答OK—

- ア) 振替によって、講義スタッフが増えてよかった。()
- イ) 若手・中堅教官の活性化をもたらした。()
- ウ) 教育・研究の継続性の保障が弱まった。()
- エ) 後継者養成が困難となった。()
- オ) 教官集団のまとまりが弱まった。()
- カ) その他()

- [大学設置基準の改訂('91.7)－一般教育と専門教育の区分撤廃－]－複数回答
- ア) 各大学が自主的に内容を決める事ができるので良い。()
 - イ) 結局は一般教育の軽視につながるので反対。()
 - ウ) 現在の一般教育はなくして、専門の基礎教育を強化すべきだ。()
 - エ) リベラル・アーツとしての一般教育は重要だ。()
 - オ) その他()

[旧帝大系大学の大学院重点化改組について] －複数回答OK－

- ア) 望ましい方向だ。()
- イ) 学部教育に負の影響を及ぼす可能性あり。()
- ウ) 大学間格差を一層広げるから反対。()
- エ) 重点的整備はやむを得ない。()
- オ) 全大学が大学院重点化を指向すべきだ。()
- カ) その他()

2. 農学系学部・大学院における教育・研究の将来像 －複数回答OK－

- ア) 国公立大学の「農学部」は多すぎるから、解体改組すべきだ。
(例えば、)
- イ) 理系全体の再編が考えられてよい。
(例えば、)
- ウ) 「農学部」の存在意義は、むしろ強まっており、それにふさわしい増設を図るべきだ。(例えば、)
- エ) 現存の「農学部」規模は堅持すべきだ。各大学の個性発揮も含めて、
今なすべきことは、
()
- オ) 「農学部」の規模問題よりも、体質の改革が必要。それぞれの地域の
農林水産業に密着した教育研究を推進すべき。(例えば、)
- カ) 「農学部」の教育研究は、付属施設との関係をもっと強化すべき。
(例えば、)
- キ) 「農」、「農林水産業」の存在意義は重要としても、そのための教育・
研究体制は現行の「農学部」でなくてよい。改編の方向としては、
()
- ク) その他()